

入選

魚釣りでの出会い

宮崎県 宮崎西中学校

一年 宮崎 俊輔

僕がそのお兄さんに出会ったのは、昨年の秋のことです。その日僕は、お昼から家族で青島港に、魚釣りに出かけました。夕方まで粘ったけれどなにも釣れず、残念な気持ちいっぱいでも帰ろうとしていました。そのとき、そのお兄さんに声をかけられたのです。

「よかったら、このメジナ2匹あげるよ。血抜きもしてあげるからね。」

そう言って、お兄さんは目の前で血抜きをしてくれました。メジナは血抜きをしないと、傷むのが早くなって、臭くなるということも教えてくれました。僕は初めて見るメジナに目を輝かせながら、なんて優しいお兄さんなのだろうと思いました。

それから、お兄さんにお礼を言って、僕たちは別れました。けれども、しばらくしてお兄さんの様子がおかしいのに気づきました。お兄さんは、バイクの鍵をバイクのいすの下にある荷物入れに間違えて入れてしまい、バイクのエンジンがかけられなくなってしまっていました。

お兄さんは携帯も中に入れてしまっていて、家も遠いのでどうしたらいいかと困っていました。そこで僕はすぐに、お父さんに頼んで、「カギの110番」に電話をかけてもらいました。でも、到着するまで1時間から2時間ほどかかるとのことでした。

お兄さんはものすごく喜んでくれて、

「ありがとう。ものすごく助かったよ。君のおかげで、バイクの鍵も、家の鍵も、スマホも財布もないこの絶望的な状況をなんとかできそうだよ。」

と言ってくれました。そして、お兄さんは「もう帰っていいよ」と言ってくれたけれど、連絡手段を持っていないお兄さんを、このまま置いて帰るのは心配だったので、いっしょに待つことにしました。お兄さんは、「じゃあ、お礼に」と言って、待っている間ずっと、釣りの仕方やコツを教えてくれました。

仕掛けの結び方や、ルアーやワームの使い方、投げ方や合わせ方など、ものすごくたくさんを教えてくださいました。このとき、お兄さんに習った仕掛けの結び方は、ほかの結び方より簡単で、ものすごくためになる結び方で、そのあとの僕の魚釣りを大いに助けてくれました。

僕がこのできごとで感じたこと、それは、人への親切は次の親切を生み、また次の新しい親切へとつながっていくということです。僕はお兄さんに親切にしてもらい、お兄さんを助けてあげたいと思いました。お兄さんも同じ気持ちだったのだと思います。

人を思い合う気持ちは、連鎖していき、人と人をつなぐかけがえのないものであり、僕はこの気持ちを大切にしていきたいと強く思いました。

お兄さんとの出会いは、僕にとって忘れられないものとなりました。お兄さんは、週末よく宮崎港で魚釣りをしているそうなので、お兄さんとまたいつか会いたい、そう強く願っています。